

令和8年度 全国学力・学習状況調査 伊勢市の結果について

伊勢市教育委員会事務局
学校教育課

I 令和8年度 全国学力・学習状況調査の概要

調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

- ・全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査概要

調査実施日	令和8年4月20日(月)～5月29日(金) ※中学校英語・児童生徒質問調査は期間内の指定された日に実施 ※小中学校の国語・算数(数学)については4月23日に実施
調査対象	小学校6年生、中学校3年生
調査事項	①児童生徒:教科調査〔国語、算数・数学、英語(中学校のみ)〕 質問調査(※中学校英語調査は、前回はR5年度に実施) ②学校:質問調査
調査問題	・学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出題 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信
今年度の調査の特徴	・中学校・英語(4技能「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」)の全面CBT(Computer Based Testing)化 ※「話すこと」調査のみ令和5年度もCBTで実施 ・小学校・児童質問でのランダム方式の導入

中学校英語の調査について

令和8年度 全国学力・学習状況の中学校英語の調査はタブレット端末を活用したCBT方式での実施。
また、**昨年度の理科調査に引き続き、IRT(項目反応理論)が取り入れられています。**

用語説明

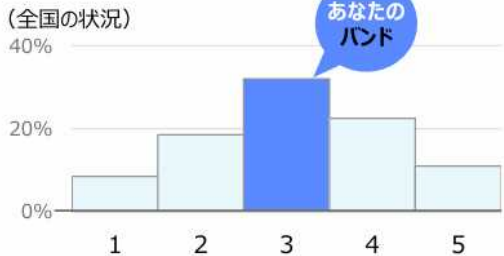
IRT	項目反応理論。児童生徒の正答・誤答が、問題の特性によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。異なる問題から構成される試験・調査の結果を同じものさし（尺度）で比較できる。
IRTスコア	IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。各教科にCBT・IRTを導入する年の全国平均500を基準値とし、経年比較が可能な形で算出。 基準値の全国平均は、算出された各生徒のスコアを足し合わせて平均をとっているため、500 に一致するとは限らない。 理想的な正規分布（データが平均の付近に集積するような分布）となった場合、標準偏差は100となるが、実際の各生徒のスコア状況により変動する。
IRTバンド（※）	IRTスコアを1～5の5段階に区切ったもので、平均バンドは3、最も高いバンドは5となる。各教科にCBT・IRTを導入する年の全国平均3を基準値とし、経年比較が可能な形で算出。 IRTバンドは、生徒ごとに算出したIRTスコアを決められた幅に区切って設定。IRTバンドが理想的な正規分布となった場合、3が約40%、2・4が約23%、1・5が約7%となるが、実際の各生徒のスコア状況により変動する。

※今年度の中学校英語IRTバンドにおけるIRTスコアの区分は次のとおりである。

中学校英語 IRTバンド	1	2	3	4	5
4技能スコア換算	～341	342～448	449～556	557～663	664～
3技能スコア換算	～329	330～443	444～558	559～673	674～

IRTバンド

- 生徒の「中学校英語」結果を5段階のIRTバンドで表示。
(標準バンドは3、最大バンドは5)



- 個人の結果は左のような5段階のIRTバンドで表示・返却される。
- 3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなる。

素点方式（正答数・正答率）、IRT方式の比較

※視力検査を例としたイメージ

	素点方式（正答数・正答率）	IRT方式
得点(スコア)の表現方法	何個のランドルト環（C） を見ることができたか	どの大きさのランドルト環（C） を安定的に見ることができたか
得点(スコア)の例	5問/7問 (正答率71%) Aさん > Bさん (4問/7問 正答率57%)	0.2 < 0.3 Aさん < Bさん

素点方式：Aさんの方が正答数（見ることができたランドルト環の数）・正答率が高くなる。

IRT方式：Bさんの方がスコア（視力）が高くなる。

2 各教科の結果について

※小中学校、各教科ごとの全国・三重県の平均正答率と伊勢市の結果の様子（中学校英語については平均IRTスコア）

①各教科の正答の状況について

小学校

	国語	算数
三重県※1	61%	55%
全国	60.9%	56.4%
伊勢市の様子	全国と ほぼ同じ	全国と ほぼ同じ

中学校

	国語	算数	英語
三重県	62%	56%	494※2
全国	63.9%	57.0%	499
伊勢市の様子	全国と ほぼ同じ	全国と ほぼ同じ	全国と ほぼ同じ

※1 平成29年度より、学力面において、細かい桁における微小な差異は、実質的な違いを示すものでないため、県や市の結果は小数点以下を四捨五入した整数値で結果が提供されています。

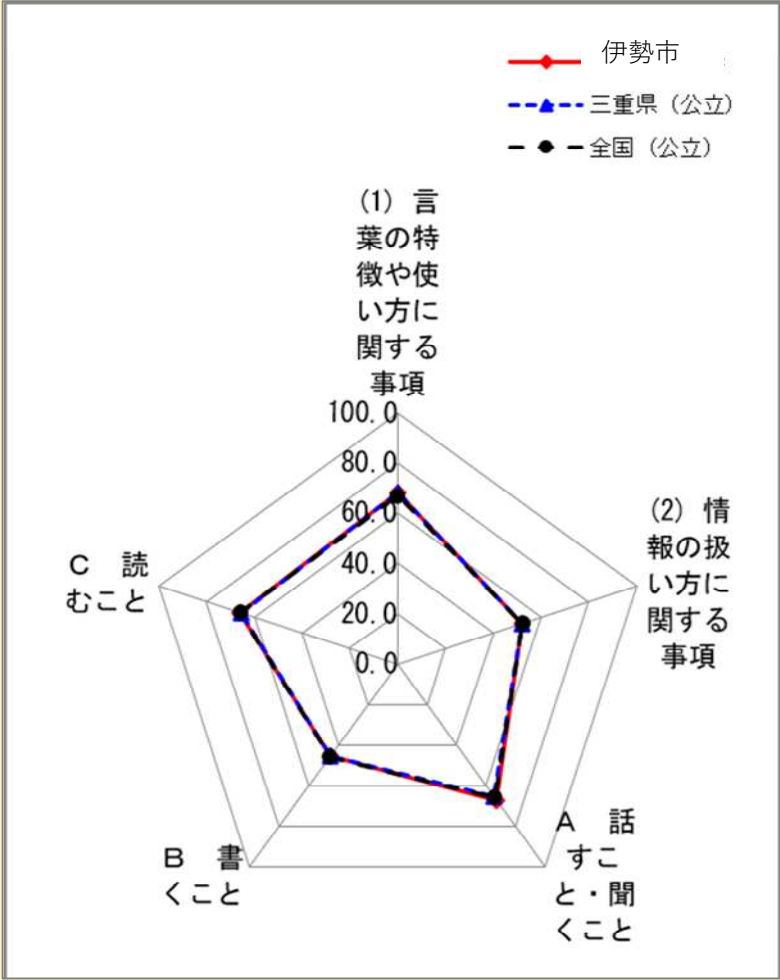
※2 中学校英語の三重県の平均IRTスコアは3技能（読む・書く・聞く）の結果です。

※平均正答率概要については、全国と伊勢市の差異が±3以内をほぼ同じとしています。

- 国語については、**全国**の**正答率と同程度**でした。
令和7年度調査より改善が見られました。
- 算数については、**全国**の**正答率と同程度**でした。

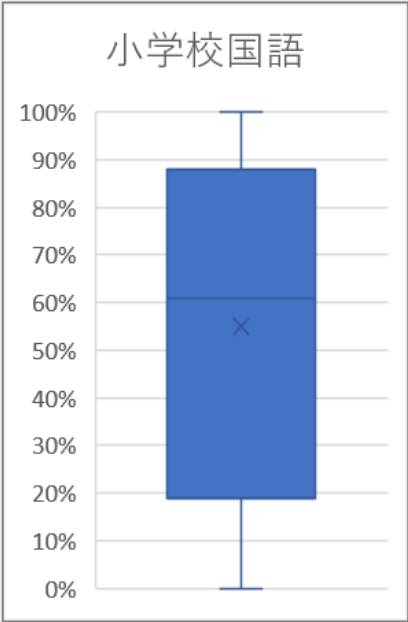
- 国語・数学ともに、**全国**の**平均正答率と同程度**でした。
- 英語については、平均IRTスコアが、**全国**の平均IRTスコアと**同程度の結果**でした。

学習指導要領の内容の平均正答率の状況



全体の様子

- 知識及び技能のうち、「言葉の特徴や使い方に関する事項」についてはやや全国の正答率を上回りました。
- 思考力・判断力・表現力等では、「A 話すこと・聞くこと」がやや全国を上回りました。
- ▲大きな課題は見られませんが、思考力・判断力・表現力等の「B書くこと」でわずかに課題が見られました。



箱ひげ図（※1）による正答率の分布

- ・正答率の分布状況について箱ひげ図で見ると、伊勢市の状況は箱の位置も四分位範囲の広がりも全国と同程度でした。
- ・正答数の分布はやや上方よりにあるものの、ちらばりの範囲は広く、個人差も大きくなっています。

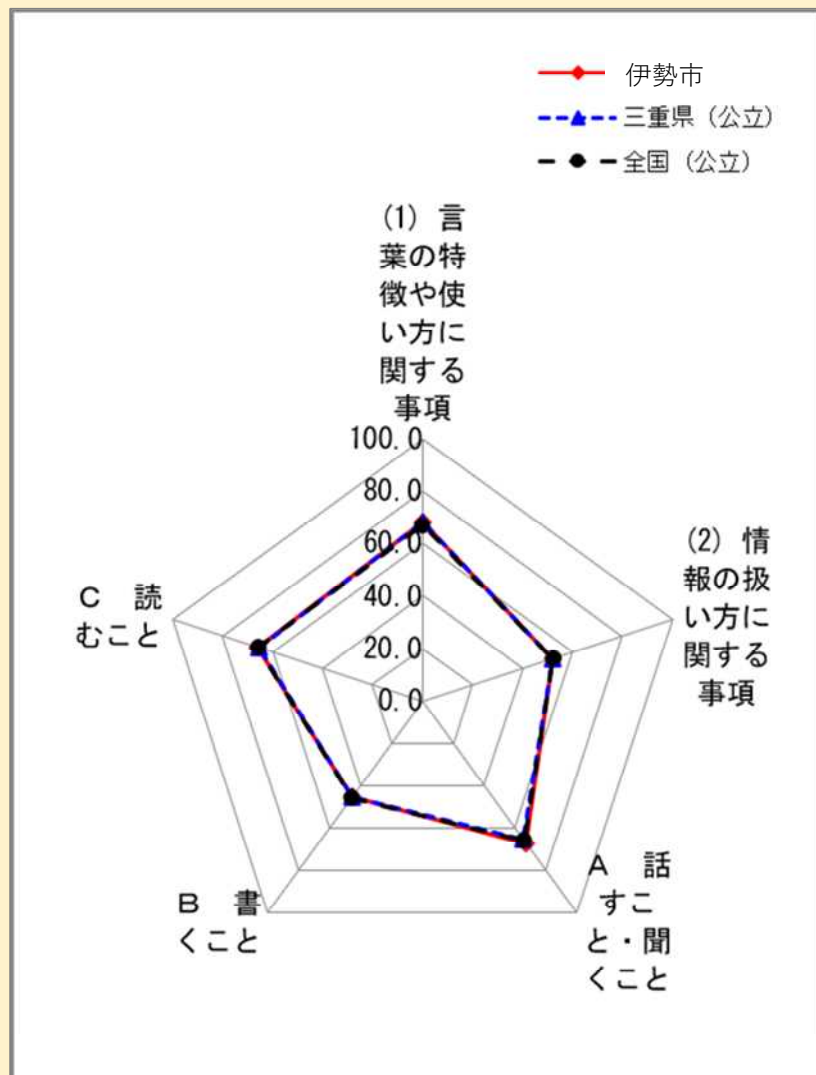
◆特徴的な結果であった設問とその出題の趣旨

設問番号	出題の趣旨
○1ー	相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができるかどうかをみる
○3ー	話や文章の種類とその特徴について理解することができるかどうかをみる
▲2四	引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる

※○全国の平均正答率を上回った設問、▲全国の平均正答率を下回った設問

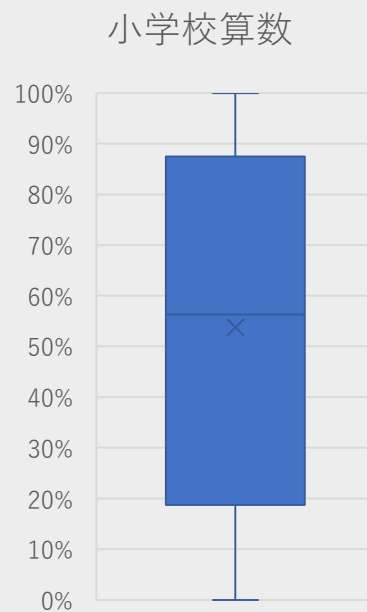
※1「箱ひげ図」とは、データの分布を大まかに把握するためのグラフです。箱（長方形）とひげ（線）を使ってデータの最大値・最小値・四分位数を表します。上図の箱の部分は正答率の準備児童生徒を並べたとき、中央付近の約50%の児童生徒が、どれくらいの正答率であったかを示します。

学習指導要領の内容の平均正答率の状況



全体の様子

- 知識及び技能のうち、「C測定」についてはやや全国の上回りでした。
- ▲知識及び技能のうち「B図形」でやや全国正答率を下回り課題が見られました。



箱ひげ図による正答率の分布

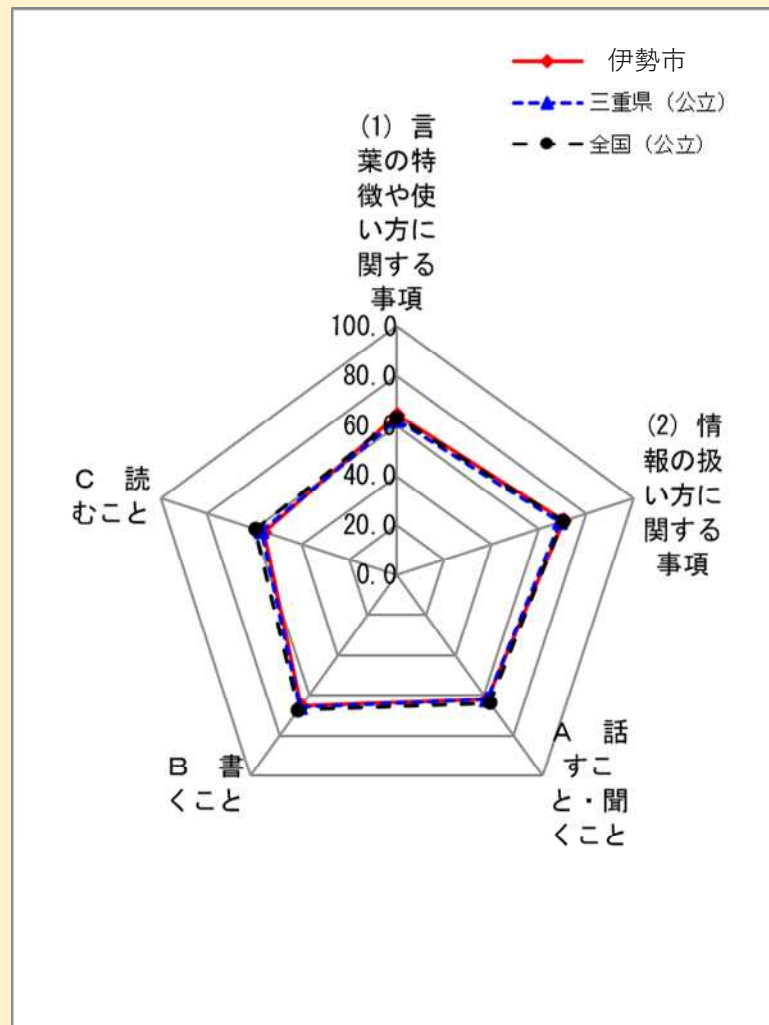
- ・正答率の分布状況について箱ひげ図で見ると、伊勢市の状況は箱の位置も四分位範囲の広がりも全国と同程度でした。
- ・正答数の分布はやや上方よりにあるものの、ちらばりの範囲は広く、個人差も大きくなっています。

◆特徴的な結果であった設問とその出題の趣旨

設問番号	出題の趣旨
○ 3 (1)	小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくることができるかどうかをみる
▲ 1 (1)	立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる
▲ 3 (3)	異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる

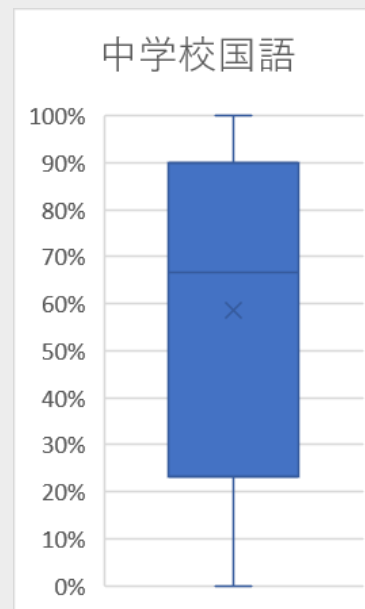
※○全国の上回り、▲全国の下回り

学習指導要領の内容の平均正答率の状況



全体の様子

- 知識及び技能のうち、「言葉の特徴や使い方に関する事項」についてやや全国の前正答率を上回りました。
- ▲思考力・判断力・表現力等のうち「C読むこと」で全国前正答率を下回り課題が見られました。



箱ひげ図による正答率の分布

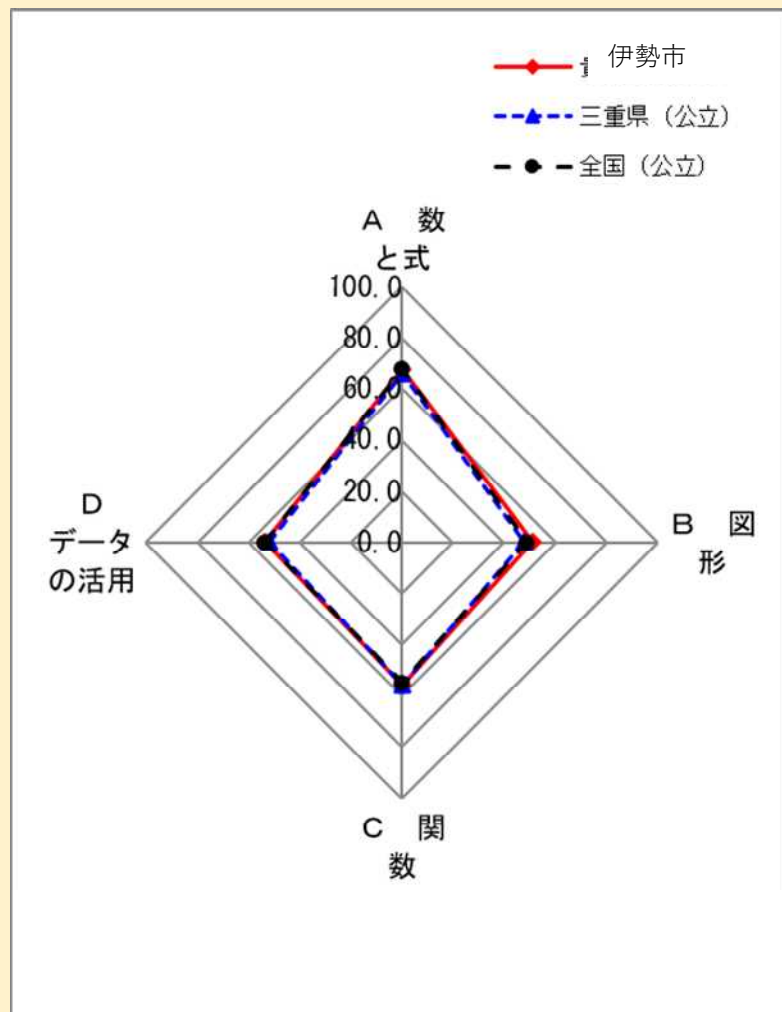
- ・正答率の分布状況について箱ひげ図で見ると、伊勢市の状況は箱の位置も四分位範囲の広がりも全国と同程度でした。
- ・正答数の分布はやや上方よりにあるものの、ちらばりの範囲は広く、個人差も大きくなっています。

◆特徴的な結果であった設問とその出題の趣旨

設問番号	出題の趣旨
○ 4 二	語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかどうかをみる
▲ 2 四	互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができるかどうかをみる
▲ 4 四	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするかどうかをみる

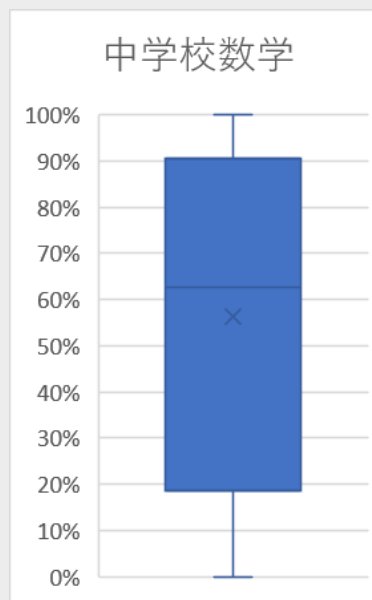
※○全国の前正答率を上回った設問、▲全国の前正答率を下回った設問

学習指導要領の内容の平均正答率の状況



全体の様子

- 知識及び技能のうち、「B図形」についてはやや全国の上回りました。
- ▲大きな課題は見られませんが、知識及び技能のうち「Dデータの活用」がやや全国の下回りました。



箱ひげ図による正答率の分布

- ・正答率の分布状況について箱ひげ図で見ると、伊勢市の状況は箱の位置も四分位範囲の広がりも全国と同程度でした。
- ・正答数の分布はやや上方よりにあるものの、ちらばりの範囲は広く、個人差も大きくなっています。

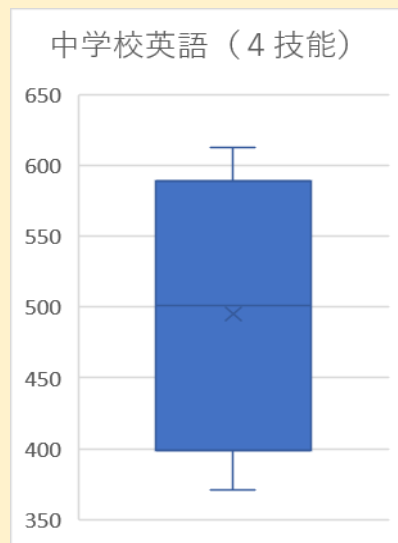
◆特徴的な結果であった設問とその出題の趣旨

設問番号	出題の趣旨
○ 2	同類項の意味を理解しているかどうかをみる
○ 8 (2)	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる
▲ 9 (3)	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかどうかをみる

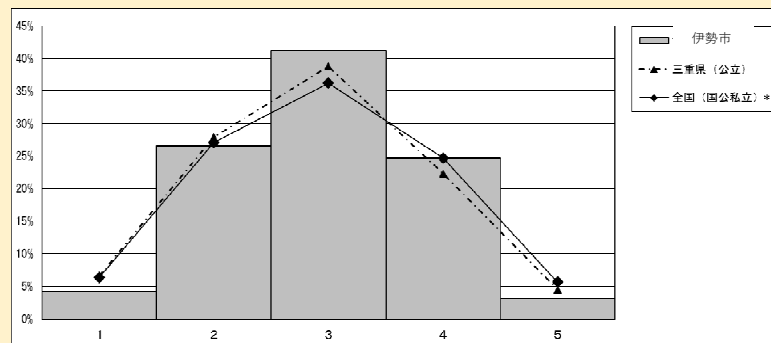
※○全国の上回った設問、▲全国の下回った設問

IRTスコア 分布グラフ

※中学校英語は
IRTスコアでの測
定のため、領域別
の正答数分布グラ
フ等は提供されて
いません。



IRTバンド分布グラフ（横軸：IRTバンド 縦軸：割合）



IRTバンド	割合（％）
5	3.2
4	24.7
3	41.2
2	26.6
1	4.3

中学校 英語

※中学校英語については、公開
問題の分析結果を示しています。

特徴的な結果であった設問とその内容（領域別）

【聞くこと】

○住みやすいまちづくりについての発表を聞き、話し手が最も伝えたいことを選択する問題（問題5）

社会的な話題について、話を聞き、要点を捉えることはできている。

▲注文の場面での店員と客の会話を聞き、客が注文したものを選択する問題（問題1）

音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能について課題が見られた。

【読むこと】

○インターネットの使用に関する文章を読み、書き手が最も伝えたいことを選択する問題（問題10(1)）

社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみることはできている。

▲誕生日パーティーに関するメールを読み、最も適切な時刻を選択する問題（問題7）

日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を読み取ることに課題が見られた。

【書くこと】

○与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く問題（問題11②）

音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。

▲中学生になってからの思い出を1つ取り上げ、そこで体験したことと感想を書く問題（問題12）

日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことに課題が見られた。

【話すこと】

▲自分のまちを訪れるのにおすすめの季節を1つ取り上げ、その理由を話す問題（問題18）

日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことについて課題が見られた。

③ 課題の見られた問題について

※各教科の問題のうち、全国平均正答率との差が+ 3 ポイント以上または正答率の低かった問題について特徴的なものを取り上げる。

小学校

国語 設問 ②四

引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるとかをみる問題。

【花山さんの文章の一部】

暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふう

1 はじめに

夏休みに外出したとき、長そでの服を着ている人を見かけた。暑いときは、そでがみじかい方がすずしいのではないかな。なせ、長そでの服を着ているのかふしぎに思ひ。暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふうについて調べることにした。

2 どうして暑い日に長そでの服を着るのか

「生活と太陽」という本には、「日差しが強いときにはだを出して日焼けをすると、はだがひりひりしたり、水分が失われたりする。」と書かれている。また、「世界の衣服」という本には、「暑い国の中には、はだのほとんどを衣服でおおっている人たちがいる。皮ふに直して日光を当てない方がすずしいのである。」と書かれている。①強い日差しが照りつけるえん天下では、はだを出しすぎないように着る物をくふうすることができそうだと。

では、すずしく過ごせる長そでの服の着方はあるのだろうか。

3 すずしく過ごせる長そでの服の着方はあるのか

「熱中しょうかん境保健マニュアル2022」には、暑さをさける衣服のくふうとして、「ゆったりした衣服にする。」「えり元をゆるめて通気する。」と書かれている。また、「夏のくらし方」という本には、「服とはだの間に風が通るようにえり元やすそをゆったりさせると、すずしくなります。」と書かれている。《図》のように衣服の形や着方を意識してくふうすることで、長そでの服でもすずしく快適に過ごすことができそうだと。

では、衣服の形や着方以外に、快適に過ごすくふうはあるのだろうか。

《図》

【花山さんの文章の続き】

4 すずしく過ごせる衣服の色は何色か

「色の効果」という本には、「青は海や水を連想させ、すずしそうに見える。」と書かれている。青や水色などひんやりとしたイメージのある色の服を着ることで、長そででもすずしく過ごすことができそうだと。

また、

5 終わりに

これまでなんとなく選んでいた衣服も、日差しをさえぎるくふうや、衣服の形、着方、色をくふうすることによって快適に過ごせることが分かった。今回分かったことを生かし、これからの生活の中で衣服をくふうしていきたい。

《参考文けん》

本の題名	本文の一部
色の効果	青は海や水を連想させ、すずしそうに見える。白は雪の色であり、冷たい印象がある。赤があたたかく感じられるのは、太陽や火を連想させるからだ。
生活と太陽	白は熱や光を反射する色のため、熱くなりにくい。一方、黒は熱や光をきゆうしゅうし、熱くなりやすい。
夏のくらし方	白やうすい青はさわやかに見え、すずしく感じます。さらに、着ている人だけでなく、周りの人にもすずしさを感じさせます。

四 花山さんは、「集めた情報」をもとに、「すずしく過ごせる衣服の色は何色か」について考えたことを「花山さんの文章の続き」に書いています。あなたが花山さんなら、 に入る内容をどのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

- (正答の条件)
- 次の条件を満たして解答している。
- ① 【集めた情報】の中から、以下のことを抜き出して書いている。
 - a 本の題名
 - b 本文の一部の内容
 - ② 抜き出した部分をかぎ(「 」)でくくっている。
 - ③ 涼しく過ごせる衣服の色について考えたことを書いている。
 - ④ 140字以内で書いている。

解答の分析

正答例 (正答率31.3%)	「生活と太陽」という本には、「白は熱や光を反しゃする色のため、熱くなりにくい。一方、黒は熱や光をきゅうしゅうし、あつくなりやすい。」と書かれている。特に強い日差しが照りつけるえん天下では、黒い服より白い服を着る方が、すずしく過ごすことができそうだと。
誤答の様子	伊勢市では、解答類型5・7の間違ひが多かった。類型5は「条件③を満たしていない」類型7は「条件①②を満たしていないもの」である。本の題名や、本文の一部の内容を選んで抜き出して書いていないことによる間違ひである。 (間違ひの具体例) 類型5「夏のくらし方」から、白い色やうすい青色の服を選ぶとよいと考えた。そうすると、長そでの服でも、すずしく着ることができそうだと。 類型7すずしく過ごすために、白い色やうすい青色などの色を選ぶなどのくふうができそうだと。黒い色は、熱くなりやすい色なので、暑い夏に外で過ごすときには、さけた方がよい。

指導改善のポイント

引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫するためには、引用する目的を明確にした上で、本や文章などから必要な語句や文を抜き出して書くことが重要です。また、原文に正確に引用することや、引用した部分と自分の考えとの関係などを明確にし、区別して書くことが大切です。指導に当たっては、「読み手に納得してもらうために、自分の考えの根拠となる客観的なデータや事例を示したい。」など、引用する目的を書き手である児童が自覚できるようにすることが重要です。また児童によっては、引用して書く必要があると考えず、本などに書いてあることを自分の考えのように書いたり、自分が考えたことだけを書いたりする場合がありますと考えられます。引用の意義や引用の方法を確認したり、振り返る機会を設けていくことも大切です。

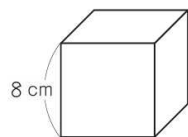
設問1 (1)

立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる問題

1

立方体や直方体について考えます。

- (1) 1辺が8 cmの立方体の体積が何 cm^3 かを求める式を書きましょう。
ただし、計算の答えを書く必要はありません。



解答の分析

正答 (正答68.4%)	$8 \times 8 \times 8$
誤答の様子	伊勢市では、解答類型2の間違いが多かった。誤答の様子から、立方体の全ての辺が等しいことは理解しているが、誤って正方形の面積の公式を用いていると考えられる。面積や体積の理解に課題があると考えられる。 またわずかではあるが類型3・4の誤答も見られた。 類型2 8×8 類型3 $8 \times 6 \cdots 2.0\%$ 類型4 8×3 又は $8 + 8 + 8 \cdots 4.4\%$

設問1 (3)

体積の意味について理解しているかどうかをみる

- (3) 1 cm^3 の立方体が36個あります。36個をすべて使って、高さが4 cmの直方体を1つ作りました。
その直方体の体積は何 cm^3 ですか。
答えを書きましょう。

解答の分析

正答	36と解答
誤答	144
	9
	4
	36、144、4以外で4の倍数

伊勢市では、正答率が4割程度であった。誤答では「144」「9」と解答する間違いが多かった。「144」「9」「36、144、4以外の4の倍数」を解答している児童は、36や高さの数である4を使った計算の答えなどを体積としていていると考えられる。

また、体積は単位体積の立方体の幾つ分で表すことができることを理解することに課題があると考えられる。

指導改善のポイント

体積も面積などと同じように、単位の大きさを決めるとその幾つ分として数値化して捉えることができることを理解できるようにすることが大切です。また、体積は 1 cm^3 の幾つ分として表すことができることや、立体の形が違ってても体積は同じであることを理解できるようにすることが大切です。

また立方体の体積についてはまた、全ての辺の長さが等しいという立方体の性質に着目することで、立方体の体積は一辺の長さをを用いて求められることを理解できるようにすることも大切です。

(正答の条件)

次の条件を満たして解答している。

- ① 〈例文2〉の擬態語「きっぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書いている。
- ② 「きっぱり」について考えたことを踏まえて、擬態語の効果について、本文中の言葉を使って書いている。

解答の分析

正答例 (正答率33.0%)	「きっぱり」は、生徒が先生に向かって、自信を持って力強く言い切っている様子を表している。このように、擬態語は話している様子の包括的なイメージを表現することができる。
誤答の様子	伊勢市では、解答類型2の間違いが多かった。〈例文2〉の擬態語「きっぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書くことはできているが、擬態語の効果について本文中の言葉を使って書くことができていないことによる間違いである。 本文の叙述を基に擬音語・擬態語について理解することができていないと考えられる。 (間違いの具体例) 類型2 「きっぱり」という擬態語をつかうことによって生徒がたくさん練習をしてきて、発表に自信があるように感じさせる効果がある。

指導改善のポイント

文章を読んで自分の考えを確かなものにするためには、具体的な場面を思い浮かべ、改めて生徒自身が文章をどのように捉えて精査・解釈したのかを振り返ることなどが考えられます。

その際、文章に書かれている大まかな内容について自分の考えを述べることにとどまるのではなく、精査・解釈した内容を振り返らせることが重要です。

四 林さんは、本文を読んで理解したことをより深めるために、〈具体的な場面〉を思い浮かべながら、二種類の例文を書いてみました。あなたは、〈例文1〉と〈例文2〉を比べて、擬態語にはどのような効果があると考えますか。あとの条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

〈具体的な場面〉



〈例文1〉〈擬態語を使っていない例文〉

「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒は言った。

〈例文2〉〈擬態語を使った例文〉

「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒はきっぱりと言った。

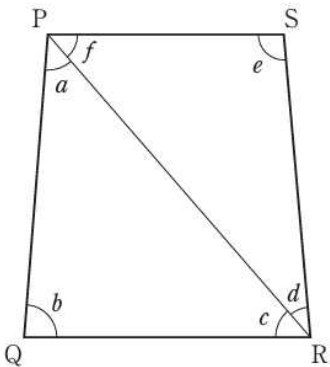
条件1 〈例文2〉の擬態語「きっぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書くこと。

条件2 条件1で書いたことを踏まえて、擬態語の効果について、本文中の言葉を使って書くこと。

設問 3

2 直線が平行になるための条件を理解しているかどうかをみる問題

3 下の図は、四角形 PQRS に対角線 PR をひいたものです。



上の図において、 $\angle a$ から $\angle f$ までの 6 つの角のうち、ある 2 つの角の大きさが等しければ、 $PS \parallel QR$ であるといえます。その 2 つの角を書きなさい。

解答の分析

正答	類型 1	$\angle c$ と $\angle f$ を解答しているもの
	類型 2	$\angle a$ と $\angle d$ を解答している
誤答	類型 3	$\angle b$ と $\angle c$ を解答している
	類型 99	上記以外

伊勢市では、正答率が 5 割程度で解答類型 3 の間違いが多かった。
解答類型 3 の中には、錯角が等しければ 2 直線が平行であることと平行四辺形の向かい合う角が等しいことを混同し、四角形において一組の向かい合う角が等しいならば 2 直線は平行であると捉えている生徒がいると考えられる。

2 直線が平行であるかどうかを判断する活動を取り入れ、2 直線が平行になるための条件についての理解を深めることができるように指導することが大切です。
また、平行四辺形について学習した後に、「四角形 PQRS において、 $\angle b = \angle e$ ならば $PS \parallel QR$ である」ことが常に成り立つかどうかについて考察する活動を取り入れることも考えられます。

1

<問題文>

レストランでの店員と客の会話を聞いて、客が注文したものを、<解答欄>の1から4までの中から1つ選びなさい。

再生ボタンを押してください

【レストランでの店員と客の会話】



<解答欄>



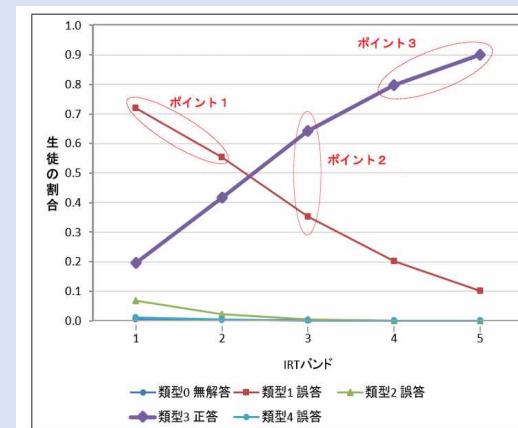
英語の音声スクリプト

店員 : Would you like some cake? We have cheesecake and chocolate cake today.
客 : Well, I love cheesecake, but I cannot eat any more food. Can I have a cup of coffee?
店員 : Of course. Any sugar and milk?
客 : Yes, please.

解答の分析

正答	類型3	3と解答しているもの
	類型1	1と解答しているもの
誤答	類型2	2と解答しているもの
	類型4	4と解答しているもの

参考：IRTバンド別類型割合グラフ（全国）



伊勢市は正答率が5割程度で、**類型1の間違いが多かった**。類型1の間違いをしている生徒は、“I love cheesecake, but I cannot eat any more food.”と「チーズケーキは好きだけれど、もう食べられない」という情報を聞き、**チーズケーキは注文しないということを理解することができていない**と考えられる。また“**I love cheesecake.**”を聞いて、ケーキを注文すると誤って捉えたり、“**I cannot eat any more food.**”を理解することができていなかったりすると考えられる。“Any sugar and milk?” “Yes, please.”というやり取りから砂糖とミルクを注文するという情報を聞き取ることはできている。また、**IRTバンド別類型割合グラフ（全国の様子）を参考にすると、伊勢市で最も多いIRTバンド3の生徒については、6割以上が正答を選択できている反面、3割以上の生徒が、「1」を選択している。特定の情報のみを聞いて解答を判断している可能性**が考えられる。

「聞くこと」の学習指導にあたっては、「聞くことの活動を意識的に行う」「音声スクリプトを活用し、話されていることの内容を確認してから聞くようにする」「学習者用デジタル教科書などを活用しながら、『聞くこと』の活動を繰り返し行う」等の取組が考えられますが、今回の調査から見た課題への手立てとしては「特定の情報のみを聞くのではなく、前後の情報も合わせて聞き取らせる」ことが大切です。例えば、問題1においては、“I love cheese cake”を聞いて、チーズケーキを注文すると判断したと考えられる解答がみられましたが、その後の男性客の“but I cannot eat any more food.”までを聞き、食べ物を勧められた男性客が、チーズケーキを注文しないことを理解する必要があります。その指導の際には“cannot eat” “any more food”など、キーワードとなる箇所を丁寧に指導することも大切です。

3 学校質問紙・児童生徒質問紙の調査結果について

児童生徒質問紙調査・学校質問紙調査から、児童生徒や学校の様子について見ていきます。
グラフは小学校6年生は水色、中学校3年生はピンク色で表示しています。

※「肯定的な回答」とは質問調査において、例えば「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」の選択肢がある場合、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の回答を指します。

① 基本的な生活習慣について

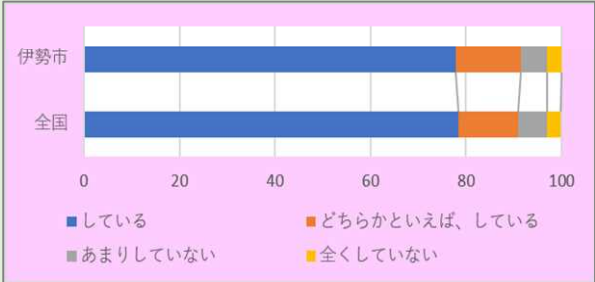
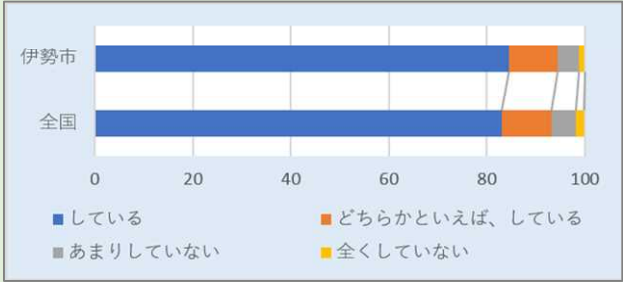
数値：肯定的な回答の割合（％）

質問事項	小学校	中学校
朝食を毎日食べていますか	94.4	91.5
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	85.1	84.0
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	92.2	93.5

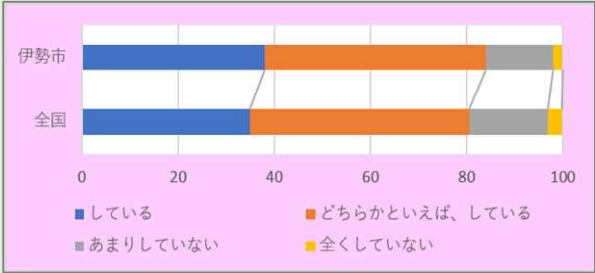
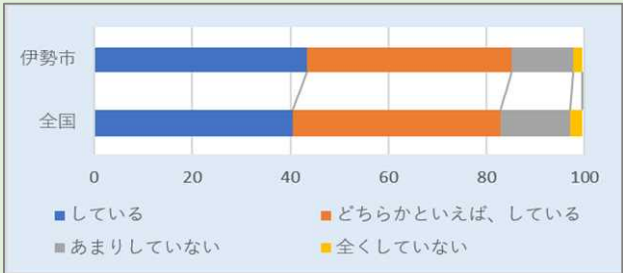
「朝食を毎日食べているか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ているか」「毎日、同じ時刻に起きているか」の質問については、すべて全国を上回る結果になっています。

基本的な生活習慣についての3つの質問については、肯定的な回答をした児童生徒の方が各教科の正答率が高い傾向が見られました。

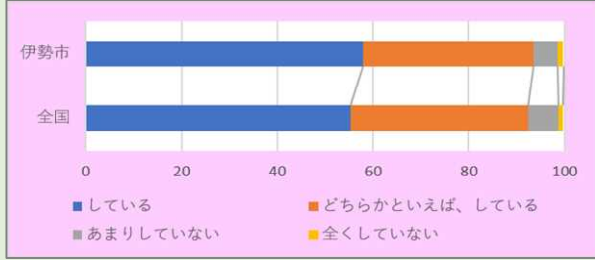
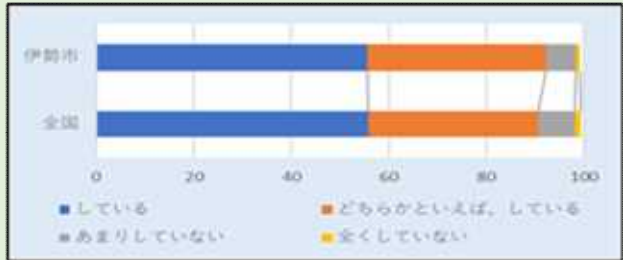
朝食を毎日食べていますか



毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



②家庭での学習習慣・SNS等の利用について

数値：【家庭学習】 1 時間以上と回答した割合（％） 【SNS等視聴】 2 時間以上

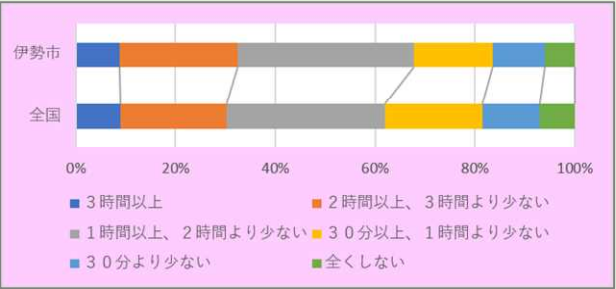
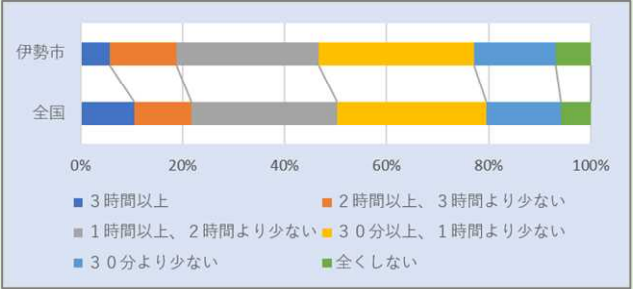
質問事項	小学校	中学校
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。※ 1	46.5	67.4
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。※ 1	11.0	29.3
普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、スマートフォン等でSNSや動画視聴などをしますか。※ 3	54.4	76.7

- ※ 1 この時間には、「学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間」も含まれます。
- ※ 2 「スマートフォン等」はスマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等を指します。
- ※ 3 スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除きます。

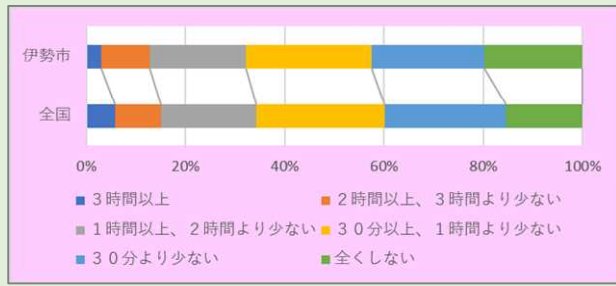
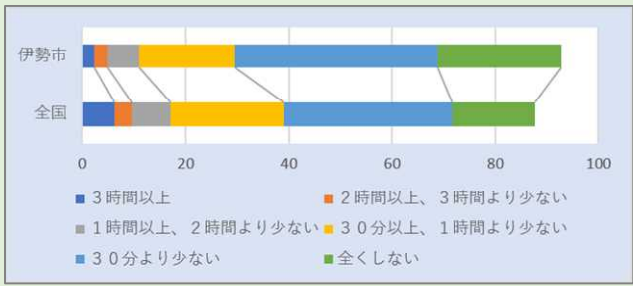
家庭での学習時間は、1 時間以上と回答した割合が中学校では平日の学習時間が全国を上回りました。小学校は、全国を下回ってはいるものの全国との差は昨年度に比べ小さくなっています。

一方で、SNS等を 1 時間以上視聴していると回答した割合は小学校に比べ中学校の方が高くなっています。SNS等の視聴時間と各教科の正答率のクロス集計を見ると、視聴時間が長くなるほど正答率が低くなる傾向が見られます。

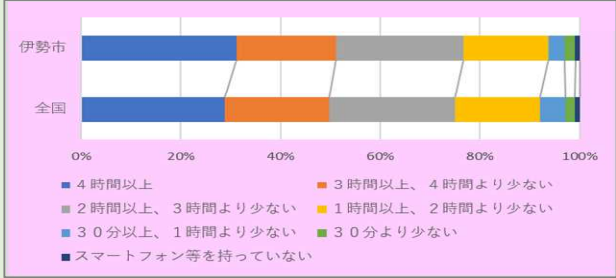
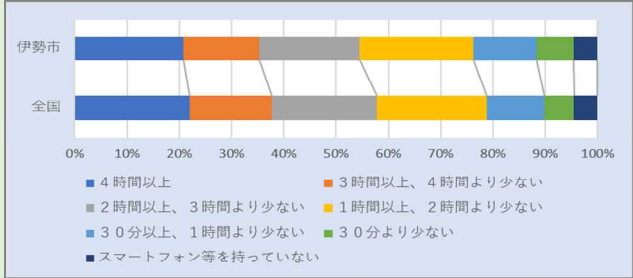
1 日あたりの家庭学習時間（平日）



1 日あたりの家庭学習時間（休日）



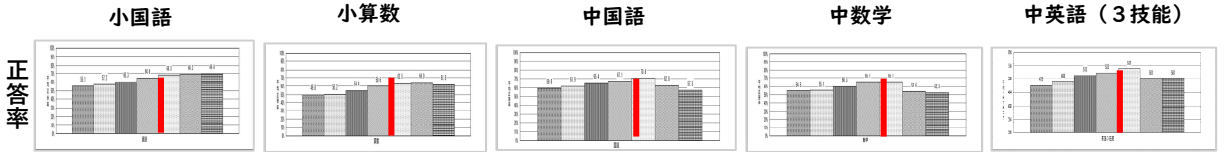
1 日あたりのSNS等視聴時間（平日）



クロス集計

SNS等の視聴時間×各教科の正答率

※赤線より左は1時間を超える視聴時間



③自己有用感・幸福感等について

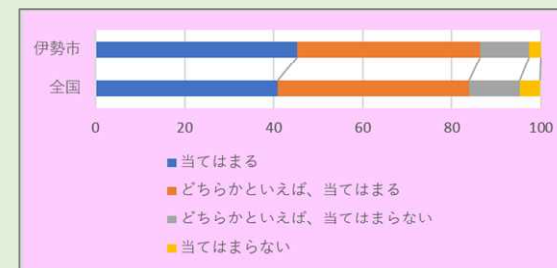
数値：肯定的な回答の割合（％）

質問事項	小学校	中学校
自分には、よいところがあると思いますか	88.2	86.3
学校に行くのは楽しいと思いますか	86.0	88.1
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	92.4	92.5
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	95.3	92.4

「自分にはよいところがあると思いますか」という質問については、小中学校ともに肯定的な回答をした児童生徒が８割を超え、どちらも全国の割合を上回りました。また、幸福感に関わる質問「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」についても、小中学校ともに９割以上の児童生徒が肯定的な回答をしています。

「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問についても肯定的な回答の割合が高くなっています。今後も、日々の学校での見守りや声かけを大切に、子ども達が安心して学べる環境づくりに努めていきます。

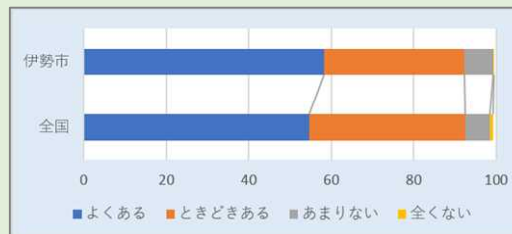
自分には、よいところがあると思いますか



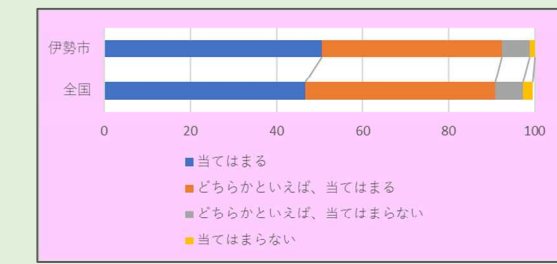
学校に行くのは楽しいと思いますか



普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



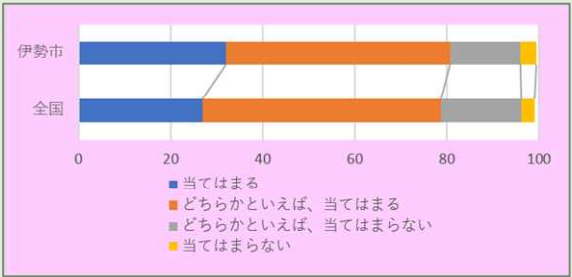
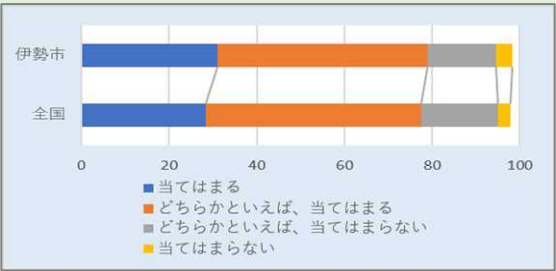
④ 主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善について

数値：肯定的な回答の割合（％）

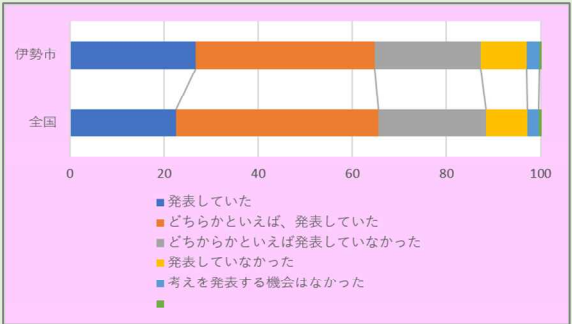
質問事項	小学校	中学校
5年生まで（※）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。 ※中学校は1・2年生	79.0	80.8
5年生まで（※）に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。※中学校は1・2年生	70.0	64.8
5年生まで（※）に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行いましたか。※中学校は1・2年生	77.9	73.9

「課題の解決に向け、自分で考え取り組んでいるか」の質問に対しては、小中学校ともに昨年度に引き続き全国を上回っています。「考えが伝わるよう工夫する」「学びを生かし考えをまとめること」についてまとめることについての質問については、小学校はどちらも全国を上回りました。中学校については、伝えることは全国の割合をやや下回ったものの、昨年度の数値より上回っており改善が見られます。

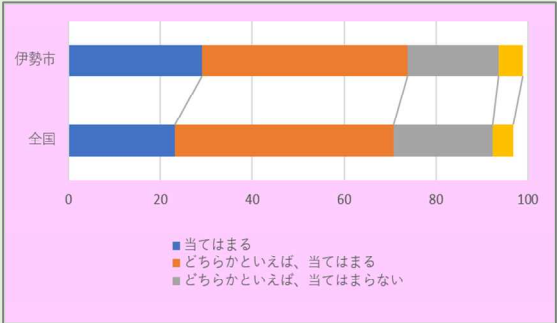
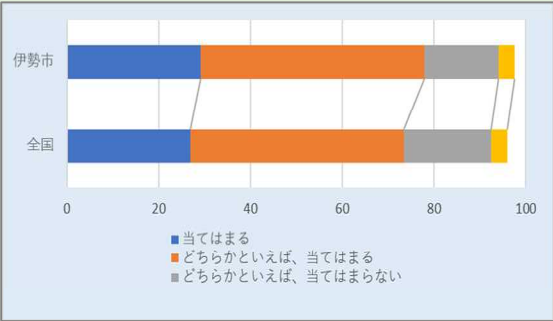
課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか



発表する際に、考えが伝わるよう工夫しているか



学んだことを生かしながら、考えをまとめているか



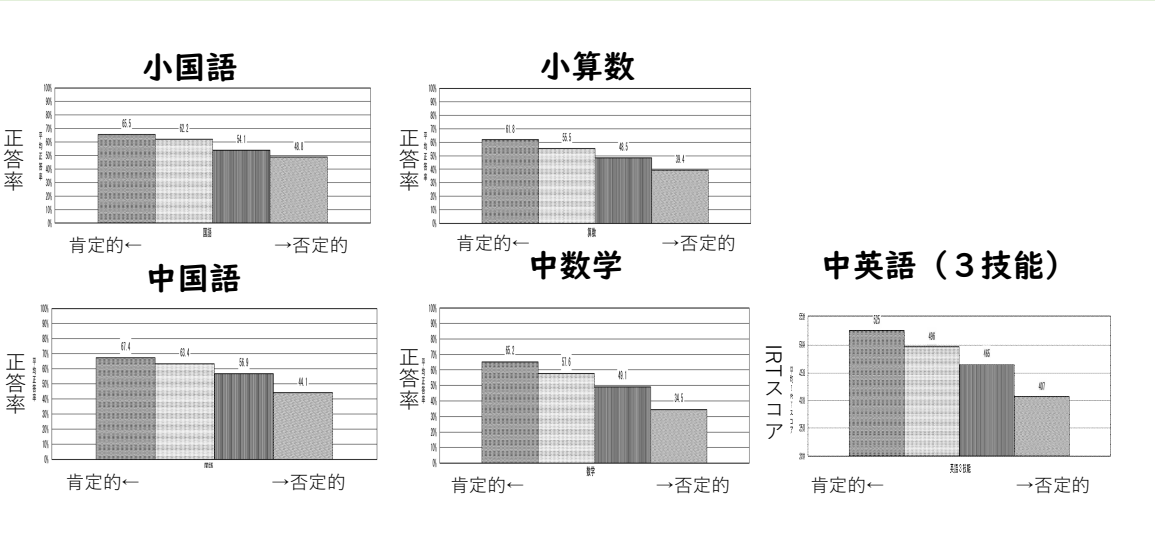
⑤ 学びの主体的な調整

数値：肯定的な回答の割合（％）

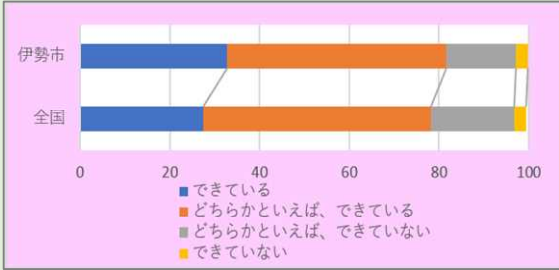
質問事項	小学校	中学校
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	82.6	81.6
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	82.6	81.3

学び方の工夫×各教科正答率

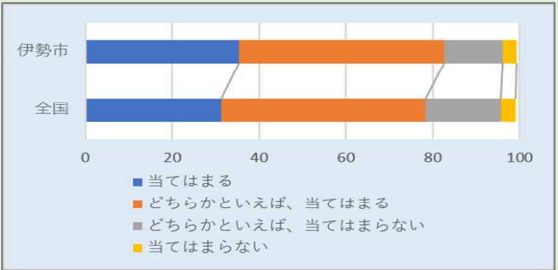
クロス集計



自分で学び方を考え、工夫することができているか



学習をふりかえり、次の学習につなげることができているか



「学びの主体的な調整」とは自分の思考や行動を客観的に把握し認識（メタ認知）しながら学習を自己調整し、思考や行動を修正したり、次の思考や行動につなげたりする力のことです。

自らの学びを調整し、次の学習や実生活に活用しようとする姿勢についての質問については、伊勢市はどの質問についても肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小中学校ともに全国を上回りました。また、学びの主体的な調整ができていると答えた児童正答の方が正答率が高い傾向にあります。

学校や家庭での学習において、学習時間の長さだけでなく、「自らの弱みや強みに合わせ学習内容や学習方法を自分で工夫する力」についてもつけていくことができるよう、学校と家庭で協力して取り組みを進めていきます。

4 伊勢市の学力向上に向けた取り組み

伊勢市教育委員会の施策としての取組

1 学力の育成

(1) 学力向上推進事業

- ・ 児童生徒の学習到達度を明らかにし、個に応じたきめ細かな指導に生かすために目標基準準拠検査（CRT）を市内全小中学校で実施しています。
- ・ 読解力向上を目指し、モデル校を指定しワークシートを活用したプログラムの取組を進めています。

(2) GIGA スクール構想の推進

- ・ 1人1台端末等ICTを活用し、「個別最適な学び」「協働的な学び」を推進し、そのための活用に係る教員研修の実施やコンピュータ等機器の環境整備の推進しています。
- ・ 情報教育推進委員を核に、情報リテラシーや情報モラル等の情報活用能力の育成に向けた取組を充実させています。
- ・ 学校へのICT機器整備及びiPadの活用を推進するため、ICT支援員を計画的に派遣し、教員間の情報共有や授業等での活用について充実を図っています。

2 グローバル教育の推進

(1) エンジョイイングリッシュ事業

- ・ 小学校では、外国語によるコミュニケーション能力の素地や基礎を養うため、ALTとの交流を実施しています。
- ・ 中学校では、スピーチコンテストを開催し、授業の成果を発表する場を設けています。
- ・ 小中学生を対象に、英語検定にチャレンジすることを通して、英語への関心意欲を高めるため、英語検定料の補助の実施しています。

(2) ALT 活動事業

- ・ 小学校では、3、4年生で外国語活動、5、6年生で外国語科が実施され、ALTは、担当教員が行う授業を補助をしています。
- ・ ALTは小学校1、2年生では、歌やゲームを中心とした外国語の活動や国際理解教育を行っています。また、異文化理解のため、ALTが行事等に参加し、様々な場面で児童と交流できるようにしています。
- ・ 中学校では、ALTが授業に加わることで、生徒の生きた英語に触れる機会を増やし、授業が実際のコミュニケーション場面の1つとなるようにしています。

3 主体的に社会を形成する力の育成

(1) 児童生徒教育活動支援事業

- ・「豊かな心を育む体験交流活動推進事業」として事業推進校を指定し、自然や環境、文化、ボランティア等に関する体験・交流、創意工夫を生かした活動を行っています。
- ・中学生が助産師や思春期保健相談士からいのちについての講義を聞いたり、赤ちゃんとふれあう機会をもったりして、自分や他者のいのちの大切さを知ること、共感能力や自己肯定感を高める機会を設定しています。

(2) 環境教育の推進

- ・学校や地域の実態に応じた特色ある環境教育・環境保全に関する取組を実施しています。
- ・環境教育出前授業を積極的に活用した実践や、県内の公的機関・ボランティア団体等と連携した環境教育の推進しています。

4 キャリア教育の推進

(1) 未来へチャレンジ！職場体験推進事業

- ・キャリア教育の一環として、中学校2年生において職場体験活動を行っています。将来さまざまな生き方や進路選択の可能性があること等の学習を通して、生徒の勤労観・職業観を育てています。
- ・地元企業のボランティア（ビジネスパーク伊勢）の協力による出前授業の実施により「地域の子どもは地域で育てる」という気運を高めています。

5 幼児教育の推進

(1) 保幼小の連携

- ・途切れのない支援を充実させるため、保幼小が連携できるように、教育・保育の参観の機会や情報交換の機会を設けています。また、「伊勢市架け橋プログラム」の取組において、子どもの姿や実践を交流し合う機会を設け、それぞれの取組の充実や改善につなげていきます。

(2) 研修講座の実施（乳幼児教育専門講座）

- ・乳幼児教育に係る今日的な課題を研修講座のテーマとして設定し、県内外の専門家を講師に迎え、幼稚園教員、保育士、小中学校教員等とともに実践的な保育を学んでいます。

結果を踏まえた今後の取組について

(1) 校内研修の充実

- ・各校の校内研修では、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善をとおり、学習指導要領に示されている資質・能力を育むための研修を行っています。全国学力・学習状況調査（以下学調）等の結果を活用し、研修内容や授業改善の方法を各校子ども達の実態に合わせ考え、実践していきます。また、各校の授業改善・研修の充実がはかれるよう、指導主事を派遣し、支援していきます。
- ・県の事業である「わかる授業」推進事業「若手教員等の育成を核とした授業力向上の取組推進事業」の推進校での実践を進めるとともに、推進校の取組を他校へも還流し授業改善にいかします。

(2) 令和8年度全国学力・学習状況調査等の結果の活用

- ・学調の結果と合わせ、目標基準準拠検査（CRT）を実施・活用し、授業改善の取組を充実させています。

(3) 学力向上推進事業における「読解力向上プロジェクト」の推進とその成果の普及

- ・「複数の情報を整理して自分の考えをまとめたり、書き表し方を工夫したりすること」の力をつけるために、令和6年度より実施してきた「読解力向上プロジェクト」を引き続き推進します。読売新聞社の「よむYOMU ワークシート」を活用し、単一の情報のみに基づくのではなく、複数の情報を比較したり、関連付けたりして検討する力をはじめとした読解力の向上を図ります。今年度は市内小学校11校にモデル校を拡大し、実施しています。その取組の効果や内容について他校にも情報共有していきます。

(4) ICT 機器を活用した授業改善と読書活動の推進

- ・伊勢市では、日常的に授業の様々な場面で、タブレット端末等 ICT 機器が活用されています。
「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、タブレット端末等 ICT 機器を効果的に活用し、「個別最適な学び」、「協働的な学び」を一体的に進め、授業改善につなげていきます。
また、教育メディア課と協力し、各校での読書活動の推進や情報活用能力の育成を進めています。

(5) 家庭・地域等との連携

- ・各学校で、学校便り等を通じて、令和8年度全国学力・学習状況調査等の結果を説明することで、子どもたちの生活習慣・学習習慣・読書習慣等の現状を家庭や地域へ発信しています。
また、家庭学習においては、学習時間だけでなく、自分自身の強みや弱みをつかみ、自分にあった学習内容や学習方法を選択し、自分の学びを「自己調整」していく力をつけられることを大切にします。そのために、子ども達が自分の学習習慣をふり返る機会を設けたり「家庭学習の手引き」等で家庭学習の目的や取組の方法を子ども達や保護者に知らせたりし、家庭と協力しながら子ども達の学習習慣の確立を目指します。

< 参考資料 >

- ・ 令和 8 年度全国学力・学習状況調査報告書（小学校国語）
- ・ 令和 8 年度全国学力・学習状況調査報告書（小学校算数）
- ・ 令和 8 年度全国学力・学習状況調査報告書（小学校理科）
- ・ 令和 8 年度全国学力・学習状況調査報告書（中学校国語）
- ・ 令和 8 年度全国学力・学習状況調査報告書（中学校数学）
- ・ 令和 8 年度全国学力・学習状況調査報告書（中学校英語）
- ・ 令和 8 年度全国学力・学習状況調査報告書（質問紙調査）
- ・ 令和8年度全国学力・学習状況調査「中学校英語」結果返却のポイント